

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	28 / 1984 / 26-29
タイトル	グダリ沼における水草の分布(第2回)
著者名	長谷川一生

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

ゲダリ沼における水草の分布—第2回—

長谷川一生

—はじめに—

昨年のキャンプでゲダリ沼における「水草の分布」調査を行った。このことにより、ゲダリ沼の正確な地図と、'83年夏における水草の分布を知ることができた。今回の調査は、一年間に水草の分布がどの程度変化したかを調べ、水質の汚染を知るとともに、在来種であるスギナモ、バイカモガリ帰化植物のオランダガラシに分布域を奮わしているかを見定めることにした。

<ゲダリ沼について>

- ① 青森市田代平高原内の湧水地、及びそこから流れる川のこと。市内を流れる荒川の源流の一つである。
- ② 付近の草地には牛が放牧されている。
- ③ ニジマス等の放流により、釣人が多数侵入しており、又、今年は家族連れ等も侵入し、心ない者が空き缶、空きごみなどを投げ捨てている。
- ④ 日本では尾瀬ヶ原、八幡平の五葉沼、北海道の大沼等ごく限られた水域にしか見られない貴重な存在であるスギナモが自生している。

<ここ数年の沼の変化について>

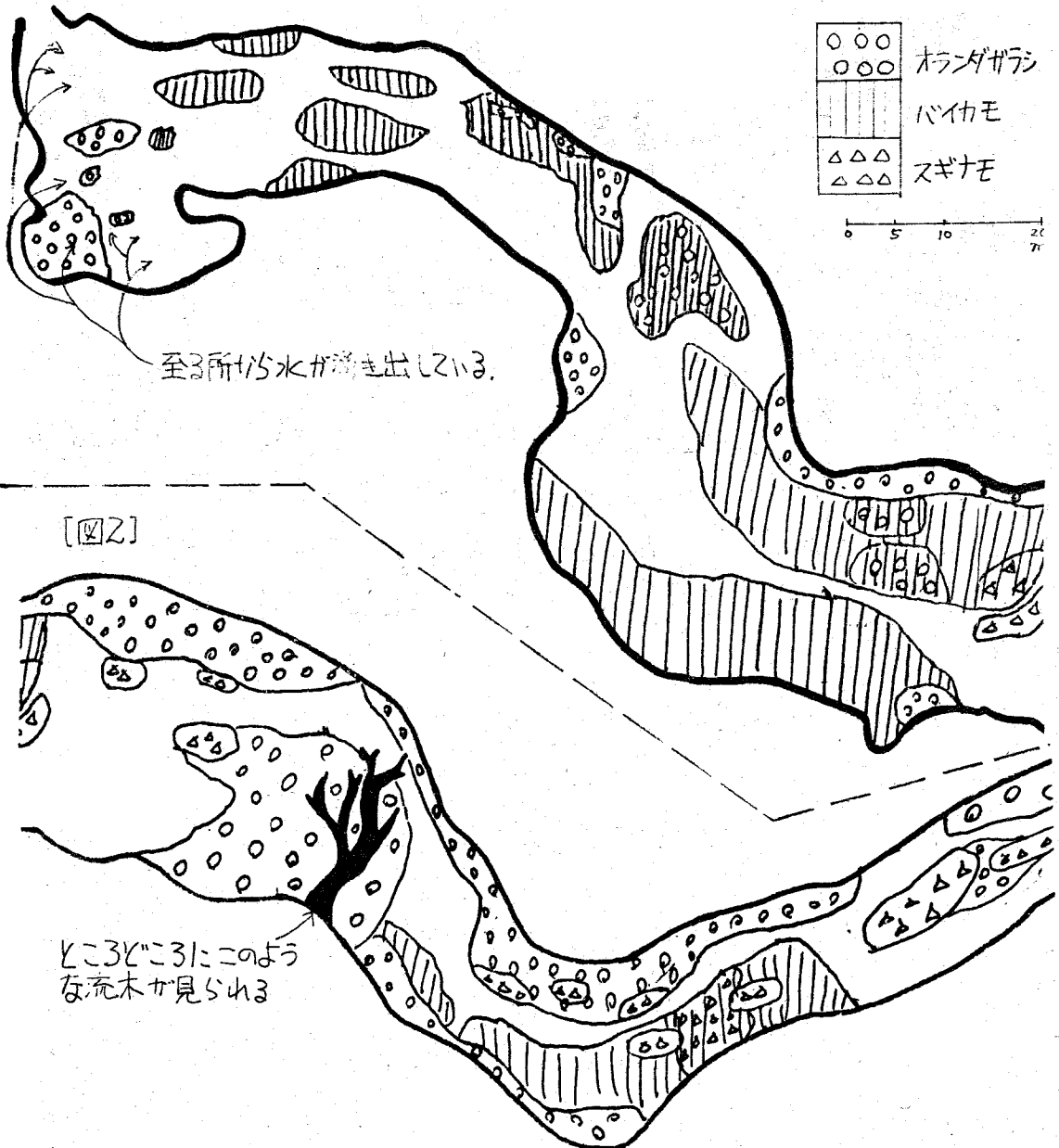
- ① 腐植層が増え、数年前まで見られなかったナミウスミシが見られるようになった。今年ほどくに多いようだ。(くわしくはアサリアの頁で)
- ② ユスリカの幼虫、アサの幼虫の卵塊が増えたことから水がだいぶ汚れたようだ。
- ③ 帰化植物であるオランダガラシの繁殖が著しい。

次ページからの報告は、これらの事実を踏まえた上で「現在、どの水草がどのよな場所、どの程度分布しているのか」を調査した結果である。

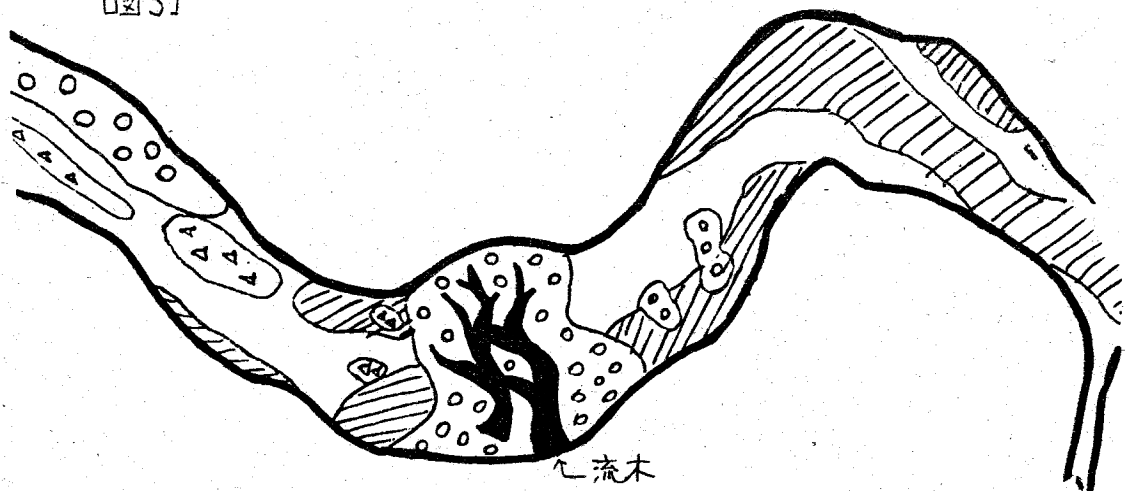
調査結果

調査を行なったのは8月7日で昨年から丁度1年がたっている。水草の種類、分布状況、地形が一目でわかるように下のような図に表すことにした。下図はすべて実測値に基づくもので実際の5000分の1となっている。

[図1] ※図1、2、3とも左→右に従って、上流→下流になっている。



[圖3]



※実際、このクワリ沼はまだまだ続くのだが、この先は行くこゝから出きなかつた。
この最下流部で他の細い流川と合流し、川幅をせばめながらも続いていく。

——今回確任された水草について——

- スギナモ……根茎は泥中を横走る。茎は再生力が強く、傾いた茎は各節から分枝して栄養繁殖を続ける。花期は7~10月末の霜の降りる時期まで。下方から開花する。雄しべ1、雌しべ1からなる両性花で、長さ約1~2mm。ごく限られた寒地にしか見られない貴重な存在である。
- オランダガラシ……抽水性の多年草で低温に強く、繁殖力が旺盛。湧き水の流れる所では冬季でも常緑性で著しく肥大するが、真夏・真冬は少し萎縮する。茎はちぎれると容易に栄養体生殖を続ける。全体は水面上に浮いている。
- バイカモ……水底が砂質・水質で冷水の清流中に多く群生。全草は鮮濃緑色。茎の下方から白色の不定根が出て水底に固着し、上方は水中に漂う。再生力が強く、破片の節から発芽して大繁殖する。花期は3~11月。

まとめ

今回の調査でわかったことを次の表にまとめた。

水草	流速	底質	その他
スギナモ	比較的緩い所。 約10m/分	泥質に多い。	水深が深い中央部に多い。
オランダガラシ	流木等により流しが緩やかな所。又は全くない、岸辺	水に流れているためほとんど関係がない。	湧き水がある所。下流へほとんど流れ止まっている。
バイカモ	比較的速い所。 約20~30m/分	砂質または山崎質。	長さ1~2m以上のものもあった。

おわりに

以上が今回(第2回)の夏期のケタリ沼における水草の分布調査の報告である。前回と水草の分布を比べると、ある所ではオランダガラシがバイカモを追い出し、別の所ではその逆がおこったり……。一概に、どこかが増え、どこかが減ったかと言うことができない。それは、今年の夏の気温・降水量なども影響するし、何年かの変化を見なければならぬ。今回は3時間ほどの時間で調べたので、いさか無理があった。調査が終了後、帰る時、ケタリ沼のすぐ横が、切かくお山開発お山つた。この開発でケタリ沼が更に汚染お山なければおいのたか。とにかく、後輩諸君に、水草だけでなく「ケタリ沼の総合調査」の形に発展おせ。5年でも10年でも継続して、ケタリ沼の今後を見守ってお山たい。僕は単に結果をまとめただけである。この調査に協力した人たちを以下に記しておく

森山拓也、川崎公誠、荒谷志能夫、岡本純、木村勉、辻一郎、田中敏